

日高山脈南部の地震群とそれらの前兆 VHF 散乱波の検出

Detection of VHF scattering waves before the Hidaka Mountain earthquakes.

森谷 武男 [1]; 山本 勲 [2]; 茂木 透 [3]; 高田 真秀 [4]

Takeo Moriya[1]; Isao Yamamoto[2]; Toru Mogi[3]; Masamitsu Takada[4]

[1] 北大・理・地震火山観測センター; [2] 岡山理大・工・情報工学; [3] 北大・理・地震火山センター; [4] 北大・理・地震火山センター

[1] ISV., Hokkaido Univ.; [2] ice.ous; [3] Inst. Seismol. Volcanol., Hokkaido Univ.; [4] Inst. Seismology and Volvanology, Hokkaido Univ.

日高山脈南部は深さ 50 km 付近に高い活動域があり、ここで発生する M 約 4 以上の地震の前には NHK 広尾放送局 (垂直偏波) からの散乱波 (水平成分) が日高山脈を越えて 30 km 離れたエリモで観測されてきた。この観測は 2004 年 3 月から始められて以来、浅い地震やや深発地震を含めて 45 個の地震の前兆散乱波を捕らえてきた。2003 年十勝沖地震後活動が活発化して非常に恵まれた時期に観測が行われてきたが最近活動が落ち着いてきた。今回はこれらから得られた最近までの統計的なや偏波特性の結果を示す。